



2025 AUTOBACS SUPER GT

Round 8 MTEGI GT 300km RACE GRAND FINAL

NOVEMBER. 1 - 2 Qualify : 17th / Race : 12th

最終戦は多難な週末に。ランキング 12 位でシーズンを終える



4月に開幕した SUPER GT は、さまざまなドラマを経ていよいよ最終戦を迎えた。ここまでランキング上位を争ってきた D'station Racing の藤井誠暢とチャーリー・ファグは、今季第 7 戦を終え 56.5 ポイントを積み重ね、ランキング 7 位とチャンピオンの権利を残して第 8 戦に臨むことになった。舞台は栃木県の実験地帯もてぎだ。

ただ、中高速コースでは抜群のスピードをみせてきた D'station Vantage GT3 だが、ストップ・アンド・ゴーレイアウトのもてぎはシーズンの中でも最も苦手とするコース。また車両のギア比が合わず、苦戦が予想されていた。

迎えたレースウィークは、11 月 1 日（土）の午前 9 時 10 分からスタートした公式練習が始まった。前夜の雨によりわずかに路面が濡れている状況だったが、藤井からコースインするとまずは 8 周を周回。ファグに交代した。

少しずつ晴れ間も見えはじめるなか、ファグも 27 周を走り公式練習を終えることになったが、D'station Vantage GT3 のベストタイムは藤井が記録した 1 分 49 秒 267。順位は 26 番手と非常に厳しいものの、苦手コースの厳しさがそのまま表れてしまう結果となった。このままでは、チャンピオン争いはおろか上位進出もままならない。チームは午後の公式予選に向けてパフォーマンス

を向上させ、セットアップの改善を進めていった。

午後 2 時からスタートした公式予選は、晴天のもと気温 22 度／路面温度 24 度というコンディションで始まった。D'station Vantage GT3 は藤井がドライブし、Q1 の A 組に出走。ここでは 1 分 47 秒 227 を記録し、7 番手で Q2 進出を達成。藤井自身も驚く好タイムとなった。

ただ続く Q2 では、ファグがアタックを担ったが、思うようにタイムを伸ばすことができず、結果は 17 番手となった。

11 月 2 日（日）の決勝日、もてぎは曇天だったが、雨の心配はなく気温 20 度／路面温度 22 度というドライコンディションで午後 1 時から決勝レースが始まった。D'station Vantage GT3 のスタートを担当したのはファグだ。

混戦のなか、ファグは 1 周目に 14 番手にポジションを上げる。レースに向けて取り組んだバランス改善が功を奏し、ファグのペースも良い。トップ 10、そしてさらなる上位を目指していったが、6 周目、まさかのアクシデントに見舞われた。ファグの 2 台後方を走っていた #6 フェラーリが競り合いのなかでブレーキングが遅れ、D'station Vantage GT3 のサイドにヒット。ファグはたまたまスピンを喫してしまった。

幸いグラベルには埋まることなくコースには復帰できたが、順位は最後尾までドロップしてしまう。ただ、ファグはあきらめることなく好ペースで追いつけをスタート。ライバルたちが早めのピットインを行っていくのに対し、36 周までピットストップを引っぱり、藤井に交代した。

この戦略、そしてスピードが功を奏し、D'station Vantage GT3 は各車がピット作業を終えると、12 番手にまで浮上することになった。

その後も藤井は前を行く #87 ランボルギーニを追いながらレースを進めたが、順位の変動はなく 12 位で最終戦を終えることになった。序盤の接触がなければさらに上位を狙える可能性もあっただけに悔しいところではあったが、苦手コースでの入賞は翌年に降にも繋がるものと言えた。

2025 年は高得点を記録したレースが 3 回あったが、一方で 8 戦中 4 戦は無得点と、浮き沈みが激しいシーズンとなり、シリーズランキングは 12 位で終えることになった。SUPER GT ではコンスタントに得点を稼いでいかなければ、チャンピオンには届かない。D'station Racing にとっても、さまざまな教訓を得るシーズンとなった。

シリーズは 2027 年に向けさまざまな変革を迎えていくことになる。その変革の前に王座を掴むべく、チームはしばしば雌伏の時を迎える。



COMMENTS :



Team Owner : Satoshi HOSHINO

第7戦は苦しいレースとなり、チャンピオン争いも厳しい展開になっていましたが、この第8戦では、あきらめることなくレースウィークに臨んでいました。ただこのもてぎは車両の特性上厳しく、土曜日の走り出しから苦しい順位となってしまいました。そこから公式予選Q1突破を果たし、決勝レースでも序盤好ペースで順位を上げてく

れたので、その点は藤井選手、チャーリー選手、チームの力がみせられたのではないかと思います。残念ながら接触もあり上位入賞とはなりませんでした。来季以降に繋がるものにはなったと思っています。チャンピオンには届きませんでしたが、来季はふたたびタイトルに挑戦していきたいと思っています。一年間応援ありがとうございました。



Director : Kazuhiro SASAKI

今回は参加条件が我々にとっても少し苦しいところもあり、なかなか勝負にならないところもありましたが、チームのみんなが頑張ってくれて、12位まで追いつけることができました。ただ、シーズン後半戦は本当にもったいないレースが多かったですよね。ポイントをしっかり獲るべきところで獲らないとチャンピオン争いは厳しくなってく

るので、そのあたりはしっかりとマネージメントしていかなければいけないと思います。その点では、今回厳しい状況のなかでもなんとか追いつけてくれたことで、ポテンシャルがあることを示してくれた最終戦にもなったと思います。来シーズンもまたイチからチャンピオンを目指して頑張っていきたいですね。



Supervisor : Tetsuya TANAKA

もてぎはクルマの特性としてあまり得意ではありませんでしたが、もう少し良い流れで週末を過ごしていたら、まだ上にいけたかもしれません。チームのみんなが頑張ってくれて、なんとか予選、決勝と速さを増すことができていましたし、レースでもラップタイムも悪くなっただけに序盤のアクシデントは残念でした。今シーズンは本当にい

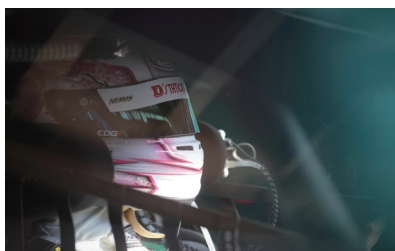
ろいろなことがありまして、タラレバは言い始めればいくらでもあります。しかしそれを含めた一年間のチャンピオンシップですし、この経験を前向きにとらえてやっていくしかないと考えています。過去を振り返っても変わらないですからね。強いチームになれるよう、前を向いてやっていきたいと思っています。



Driver : Tomonobu FUJII

このモビリティリゾートもてぎは相性としてはかなり苦しいコースでしたが、公式予選Q1はなんとか通過することができました。ただQ2があまり良いタイムではなく、グリッドは苦しいものになりました。決勝レースに向けてはバランスを改善していったこともあり、苦しい中でも良いクルマにできたと思うのですが、序盤チャーリー選手

がヒットされてしまい、順位が下がることになってしまいました。とはいえコース上でのペースは苦手なサーキットだったことを考えると良かったですし、12位でポイントも獲れたことは良かったです。今季は取りこぼしも多かったですし、良いときと悪いときの差が大きいシーズンでした。その点は今後に向けた課題ですね。



Driver : Charlie Fagg

今週末を通じてすごく難しいレースになってしまったね。この数戦は僕たちはなかなか速く走ることができていなかったけれど、予選に向けて改善していったんだ。藤井サンが良い走りをしてくれてQ2に繋いでくれたけど、僕自身はもっと良い走りができたと考えているよ。レースでは、序盤良いペースで順位を上げることができたのは良かった

んだけど、ヒットされてしまったのは残念だった。相手は謝りに来てくれたけど、最後尾まで落ちることになってしまったからね。その後追いつけて12位に入れたことは良かったけど、あれがなければトップ5もいけたかもしれない。レースだから仕方ないことだけど。来年はもっと運に恵まれて、タイトルに挑戦できるといいね！

